

# いずみさの昔と今 第361回

## 引札と暦の深いつながり

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、企画展「正月引札・広告印刷物に見る佐野の商店・」を開催中です。今回は引札と暦・カレンダーの関係について紹介します。

江戸時代、暦は誰でも印刷できるものではなく、一部の暦師・弘暦者だけが暦の印刷を許可されていた。そこで商店は、一枚物の暦に店や商品の情報を入れた引札を配り始めました。当時の暮らしに欠かせなかった暦とセットにすることで、長く保管してもらえると考えたためです。その他にも縁起のいい絵や暦注（占いや運勢）などを書き加えたものが印刷されました。現在のカレンダーの前身といえるかもしれません。

明治時代になり、明治6（1873）年、太陽暦（新暦）が導入されます。明治16（1883）年には一枚摺の略暦の発行が自由化され、引札印刷業者は略暦の印刷も行うようになります。自由化当初は江戸時代と同じく引札と暦が一枚になったものでしたが、次第に絵柄のみの正月引札と、暦単体に分か

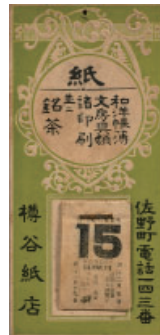
れていきます。一方で、地元印刷業者が小さな略暦を印刷し、正月引札に貼り付ける場合もありました。

新暦が導入された際に、旧暦は表記されなくなりましたが、明治16年の自由化後は新暦と旧暦を併記するようになります。旧暦に基づいたお祭りや農作業が続いていたので、多くの人々にとって、旧暦も引き続き大切な情報であったことがわかります。また新暦導入時に、暦注は非科学的であるとして削除されましたが、印刷自由化の頃には暦注も復活しました。

正月引札と暦の関係が変化するのには、明治30年代初めです。海外貿易商社が使っていたものを参考に、横浜や神戸で日めくりカレンダーが試作されました。そして明治36（1903）年に、大阪で本格的な製造販売が始まりました。大手引札印刷業者の古島印刷所は、各地からの問い合わせに応える形で、明治43（1910）年から日めくりカレンダー製造を始めました。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）  
開館時間 午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

▶大正13（1924）年の「樽谷紙店の日めくりカレンダー」

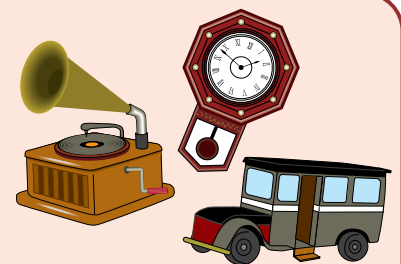


旧暦の両方が印刷され、台紙に印刷された広告や模様を楽しむことができることから、売り上げを伸ばしていききました。大正4（1915）年には、古島印刷所と並ぶ大手引札印刷業者であった中井徳商會が、ありがたい言葉を入れた「金言日表」を製造し、大人気となりました。その一方で正月引札は、宣伝広告の役割を日めくりカレンダーへ譲り、ひっそりと姿を消していききました。

## 泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

### ①9 駅シリーズ JR 日根野駅



▶昔の日根野駅の写真（年代不明）。写真は収獲したタマネギを貨物車に積み込んでいるところ。



日根野駅は昭和5年に阪和電気鉄道の停留場として開設され、昭和6年に日根野駅となり、側線を新設し、貨物の取扱を開始しました。

▼昭和61年の日根野駅周辺の空撮写真。駅前には、現在は埋め立てられた白水池や田んぼが見えます。



▲現在の日根野駅。駅前が埋め立てられたあとは、ロータリーや高層マンションなどができています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！